

2026年7月1日

近鉄グループホールディングス株式会社

株式会社三菱UFJ銀行

**鉄道業界初のメガバンクとの BaaS を活用した個人向け銀行サービス
「近鉄 KIPS BANK powered by 三菱 UFJ 銀行（仮称）」を 2027 年 3 月に開始予定**

近鉄グループホールディングス株式会社（代表取締役社長 若井 敬^{わかい たかし}、以下 近鉄 GHD）と株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 大澤 正和^{おおさわ まさかず}、以下 三菱UFJ銀行）は、本日2026年7月1日に業務提携契約を締結し、鉄道業界初^[1]となるメガバンクとの BaaS^[2]を活用した個人向け銀行サービス「近鉄 KIPS BANK powered by 三菱UFJ銀行（仮称）」（以下 近鉄 KIPS BANK）を2027年3月に開始予定^[3]となりましたことをお知らせします。

近鉄 KIPS BANK は、三菱UFJ銀行の BaaS アプリ基盤「& BANK」を活用した KIPS^[4]会員専用の銀行サービスです。お客さまは、近鉄 KIPS BANK アプリを通じて、預金や振込、融資等の銀行サービスをご利用いただけます。これにより、約 170 万人の会員を有する近鉄（KIPS）デジタル経済圏^[5]において、日常の消費・移動と金融サービスの一体化を実現します。さらに、近鉄 KIPS BANK および近鉄 GHD のクレジットカードである KIPS クレジットカードの利用状況に応じて、近鉄特急「ひのとり」、「しまかぜ」などの特急券やあべのハルカス展望台「ハルカス 300」入場券、あべのアポロシネマでの映画鑑賞チケット、近鉄百貨店のギフトアイテムなど、近鉄グループのサービスをお得に利用できる特典プログラムの提供を予定しています。

本取り組みは、近鉄 GHD が有する生活インフラ基盤と、三菱UFJ銀行の金融商品・デジタル基盤を融合し、「移動・消費」と「金融」をシームレスに連携することで、日常生活に溶け込む新たな金融サービスの提供と沿線経済の活性化を目指します。両社は『「いつも」がおトクに、「いつも以上」がもっと楽しく動き出す』をコンセプトに、沿線をご利用されるお客さまの日常から特別な時間までの価値向上を図り、沿線の暮らし全体の魅力向上に貢献してまいります。

[1] 近鉄 GHD および三菱UFJ銀行調べ。2026年7月1日時点、日本標準産業分類における鉄道業を展開している企業の内、メガバンクを所属銀行とする個人向けの銀行代理業許可取得かつフルバンキング型（預金・為替・融資等の媒介機能を有する）の BaaS 事業は本件が初。

[2] Banking as a Service の略称。

[3] 近鉄 GHD が三菱UFJ銀行を所属銀行とする銀行代理業の許可を受けることを前提としています。

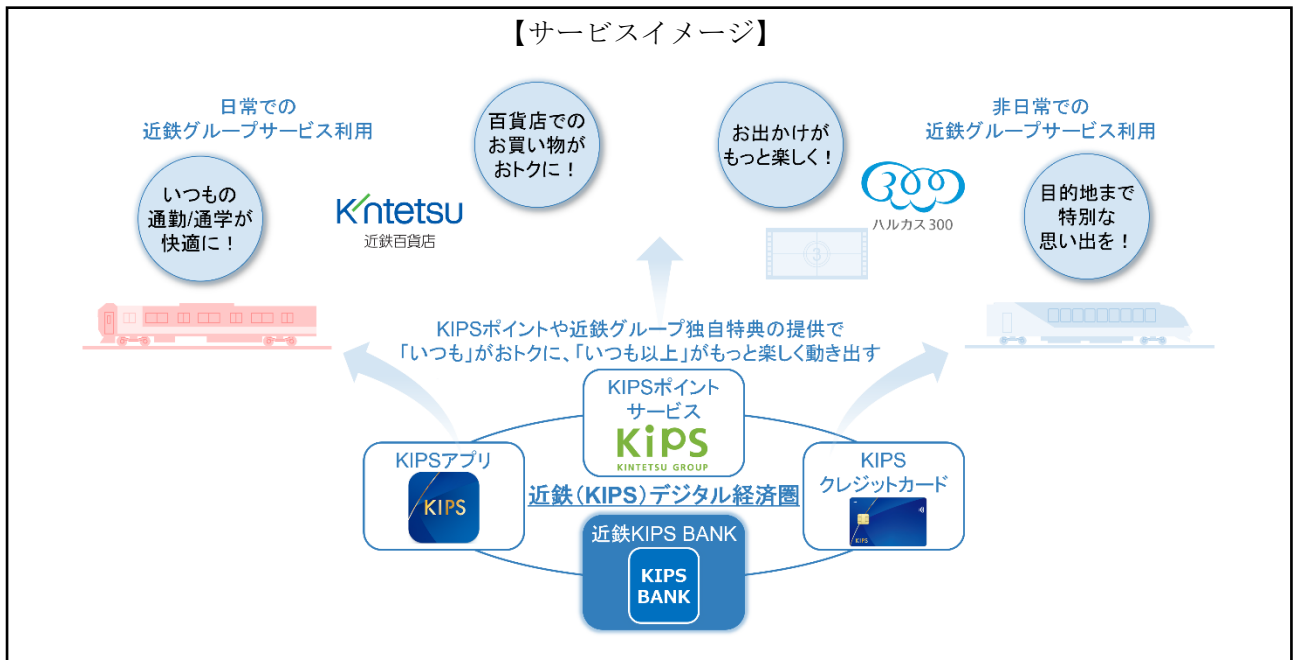
[4] 近鉄グループの共通ポイントサービスを指す。グループの店舗・施設などでポイントが貯まる、利用できるサービス。

[5] 近鉄グループが提供するデジタルサービスとその利用者。

別紙

BaaS を活用した個人向け銀行サービス概要

1. 名 称 「近鉄 KIPS BANK powered by 三菱 UFJ 銀行（仮称）」
2. 開始時期 2027年3月（予定）
3. 内 容 三菱 UFJ 銀行の BaaS アプリ基盤「& BANK」を活用し、近鉄 KIPS BANK アプリを通じて、預金や振込、融資等の銀行サービスを提供。本サービスおよび KIPS クレジットカードのご利用状況に応じて、近鉄グループ独自の特典を進呈。



4. 業務提携の背景と目的

近鉄グループは、「中期経営計画2028」における「グループ共通基盤の取り組み」の一つとして、データやデジタル技術を活用した新たな価値創造を掲げています。お客さまとのリアル・デジタル双方の接点である共通ポイントサービス「KIPS ポイントサービス」と BaaS 基盤を活用し、KIPS クレジットカードおよび KIPS アプリの相互利用を促進することで、近鉄（KIPS）デジタル経済圏のさらなる拡大を目指します。併せて、金融サービスと生活サービスの統合、両社 ID の連携によるグループ共通基盤の強化、One to One マーケティングの高度化を推進していきます。

三菱 UFJ 銀行は、MUFG リテール戦略で掲げる「お客さまの人生を支えるチカラになる」のもと、顧客基盤の拡大と LTV（顧客生涯価値）最大化を重要課題と位置付け、パートナー企業の顧客基盤やサービスと金融機能の融合を実現する BaaS アプリ基盤「& BANK」を展開しています。

本取り組みにより、近鉄 GHD が目指す『地域社会のパートナー、そして新しい“時代”へ』を、グループの幅広い事業フィールドが持つ魅力的なコンテンツとデジタルの掛け合わせによりさらに加速するとともに、三菱 UFJ 銀行にとっては生活インフラ企業との協業モデルの創出を目指します。

以 上